

令和4年3月 市長定例記者会見

令和4年2月17日(木)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今より令和4年3月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと移らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、まず挙手をお願いいたします。そして、ご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようお願い申し上げます。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 では、3月定例記者会見、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、3月議会の告示日でもありまして、議会は2月24日から3月23日までということで28日間開会されます。令和4年度当初予算や令和3年度3月補正予算、また一般議案を上程させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

駅西地区のエリアにつきまして、名称を決定いたしました。TSURUGA POLT SQUARE otta (ツルガ ポルト スクエア オッタ) という名前でございまして、otta (オッタ) という名前が愛称になっていけばいいなというふうに思っておりますし、市民の皆様にも親しみやすい名前になったんじゃないかなと思っております。

それから、3回目のワクチンの接種でございますが、ファイザー社、モデルナ社、いずれの場合であっても効果があると言われておりますので、ぜひ接種券が届きましたら予約をしていただきたいと思います。

また一方で、キャンセル待ちの希望者も募集しておりますので、キャンセル待ちをしていただいて前倒しして受けていただけると、ワクチンが無駄になりませんのでありがたいなと思っております。

5歳から11歳までの方々についてのワクチンの接種を2月25日から接種券を発送して実施させていただく予定になっています。

コロナにつきましては、感染が非常に高まっております。今日、県内で325人ということをお伺いしております。思わぬところから身近な人が感染して不安になったりしますが、今までどおりマスクをする、うがいをする、手洗いをするということをしつかりと心がけていただいて、できるだけ密にならない生活習慣を維持していただければ、これを乗り越えられるのではないかと思いますので、よろしくお願いいたします。

福井県の感染拡大警報に合わせまして2月20日までの施設の利用制限をしておりましたが、3月6日まで延長しようということを考えております。

それと、中学校等の部活動、スポーツ少年団の活動自粛を要請しておりましたが、これにつきましては学校もしくは指導者にお任せするという形で、しっかりと対応していただきながら判断していただくということにしていきたいと考えております。

いろいろと情勢が変わったり、いろいろなことが起きていきますけれども、しっかりと対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 本日の事業発表につきましては、令和4年度当初予算、令和3年度補正予算の概要についてということでございます。

令和4年度は、第7次総合計画策定後初めての予算編成であることから、「次世代につながる夢と希望に満ちた住みたくなるまち敦賀」を実現すべく、計画に掲げられた施策に重点的に予算を配分いたしました。

このため、当初予算においては、子育て支援の充実や教育環境の整備、産業構造の複軸化や新幹線開業に向けた受け皿づくりの推進など、これまでの取り組みをさらに強化するとともに、カーボンニュートラルやデジタルトランスフォーメーションといった新たな課題に着手するための予算を計上しております。

これらの事業とともに、最終処分場整備等の大規模プロジェクトや感染症対策、地域経済活性化のための取り組みを着実に推進するため、ふるさと応援基金等からの繰り入れに加え、国庫支出金の積極的な活用を図り、切れ目のない経済対策を実施してまいります。

その結果、新年度の予算規模は、前年度と比較して一般会計は15.3%の増、全会計では9.6%の増となりました。

当初予算の主な事業といたしましては、お手元に配付した資料のとおりですが、予算編成の重点施策ごとに主な事業等を申し上げます。

初めに、子育て環境日本一の実践につきましては、駅西地区に開設が予定されています親子が気軽に集い、育児相談や一時預かり等を行うことができる子育て支援施設の整備に対して補助を行うとともに、昨年春に開校した角鹿小中学校に角鹿児童クラブを整備する所要額を昨年度に引き続き計上いたしました。

また、市内の保育園、幼稚園等において、園児の健全な発達を促すことを目的に、地域の特色を生かした幅広い生活体験や自然体験を学習するために必要な経費を計上いたしました。さらに、放課後児童クラブでは、市内全施設を対象に、利用児童の出欠管理や保護者との双方向連絡などの業務をICT化するための環境整備を、病児・病後児保育施設においては、県の事業を活用し利用料の無償化拡充を図るとともに、利用者の増加に対応するため受け入れ定員の拡大を実施いたします。

次に、新幹線開業に向けたにぎわいの創出につきましては、機運醸成、開業効果の最大化を図るため、行政・民間企業・関係団体による協働推進組織が実施するプロモーション施策等に係る負担金を計上するとともに、駅西地区において本年秋に供用を開始する知育・啓発施設の開設準備及び運営に係る経費を計上いたしました。

また、本市が整備を担う新幹線駅前広場などの駅周辺整備につきましても、令和6年春の開業に向け、関係機関と連携し、着実に工事を進めるための事業費を計上いたしました。

次に、グリーン&デジタル都市への挑戦につきましては、本市のスマートエリアの将来像を描くビジョンの策定と、この実現に向けたデジタルサービス導入等に関する基本計画

を策定してまいります。

また、コミュニティバス、ぐるっと敦賀周遊バス等に係るキャッシュレス決済の導入準備や、市内の全除雪車にGPS装置を設置し、除雪の見える化を推進する経費、手作業や紙ベースで行っている庁内事務の一部をRPA等によりデジタル化し事務の効率化を図る経費などを計上いたしました。デジタル技術やデータを活用することで、住民の利便性向上、業務の効率化につなげてまいります。

最後に、コロナケアにつきましては、ワクチン接種を迅速かつ安全に実施するため、前年度に引き続き、コールセンター・集団接種会場の設置に要する経費を計上するとともに、75歳以上の高齢者や障害者の方に対する接種会場までのタクシー利用に係る助成費、各施設における感染拡大防止のための消毒液等の購入経費を計上いたしました。

また、感染の早期発見、拡大防止のため、PCR検査等で生じる保険診療の自己負担額に対する助成や、医療従事者が家庭内感染等を懸念して帰宅を控える際の宿泊先の確保についても引き続き行ってまいります。さらに、アフターコロナを見据え、コロナ禍で外出を控えていた高齢者の活動意欲を引き出し、健康増進につなげることを目的として、博物館、ムゼウムなどの施設入場料の割引や、ケーブルテレビでのつるが元気体操の定期放映等を実施いたします。

事業者への経済活動支援、消費喚起の取り組みとしては、中小企業が行う設備投資等への補助やサテライトオフィスの整備に係る補助、事業者等が実施する消費拡大を図るためのイベント等に対する支援を行います。

以上が令和4年度当初予算の概要でございます。

続きまして、令和3年度3月補正予算について申し上げます。

3月補正予算につきましては、事業の完了や財源の確定に伴うもののほか、国の補正予算に合わせた追加の経済対策事業など予算措置を必要とするものについて計上いたしました。

まず、一般会計では、新年度予算に計上予定であった道路改良や橋りょう長寿命化、総合運動公園テニスコートの改修経費等について、国の補正予算を活用し、前倒しで計上いたしました。その他の予算といたしましては、職員の早期退職に伴う退職手当や、ふるさと納税寄附金の増加に伴う関係予算を計上いたしました。

次に、特別会計では、国民健康保険特別会計において、保険給付費の不足見込み額を、介護保険特別会計では、前年度決算における剰余額確定等に伴う基金積立金を計上いたしました。

最後に、企業会計につきましては、下水道事業会計において、雨水管渠呉羽幹線の整備費に国の補正予算を活用し、前倒しで計上いたしました。

以上が3月議会に提案いたします令和4年度当初予算及び令和3年度3月補正予算の概要でございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今発表いたしました項目につきまして質問をお受けしたいと思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 来年が選挙ということで、政策的な予算を編成するのは今年が最後だと思うんですけども、2期目に市長が掲げた政策の実現も含めて、この仕上げになった予算編成についての思いをお伝えください。

【市長】 今回の予算は、かなり大きな予算ですけれども、キャッチフレーズを聞かれるんじゃないかといういろいろ考えたんですが、敦賀躍進総仕上げと新たなチャレンジ予算というふうに考えております。

私の選挙のときには、敦賀躍進ということを掲げさせていただきましたけれども、その躍進について進めてきた事業がある程度仕上がってきたのかなというふうに感じておりますし、新幹線敦賀開業につきましては1年延びましたので、それに向けて、また開業後のにぎわいについて新たなチャレンジをしていかなくはないというふうに考えて予算編成をさせていただいたところです。

【記者】 所感としては、ある程度2期目に掲げた政策については、この予算編成をもって実現できたというご感想ですか。

【市長】 そうですね。いろんなものが形としてなってきたのかなというふうに考えております。小中一貫校については出来上がりましたし、次年度につきましては角鹿児童クラブができますので、それで一つの形になりますし、庁舎の整備につきましても、熊本の地震があってから建設まで長い道のりだったかもしれませんが、形になってまいりまして、残りの外構工事が来年度で完了します。

駅西の開発につきましては、先ほど言いましたように、otta（オッタ）というところの中に「ちえなみき」もできますし、駅東については、まだまだ1年延びますけれども、その中で整備を進めていく。今年から年度、再来年度が勝負の年になってくるというふうに思っています。

それから、国道8号の東浦の防災道路につきましても、今年度につち音が響くというふうに聞いておりますので、着工していくというところに来ましたし、一般廃棄物最終処分場と清掃センターにつきましても、用地等を含めて次年度で大体形になってくるなというふうに思っていますので、かなりのものが仕上げとしてはなってきたかなと思っています。

あとは、ソフト的に言いますと、ふるさと納税も増えてきましたし、これは私が市長になってから始めた事業です。第2産業団地も完売できました。そして、敦賀真鯛のブランド化というのも一つ、いろんなものが少しずつ形になって姿が見えてきたんじゃないかなというふうに考えています。

【記者】 最後、1点。

今お話の途中にもあったんですけれども、ふるさと納税が非常に好調だということで、当初でも50億円を見込んでいるということなんですけれども、ボリュームとしては電源三法交付金と同じくらいのボリュームになったと。ここまで成長したことに関してのご感想をお願いします。

【市長】 本当にこれは職員の頑張りと、そしてまた関係する事業者の皆様、また中間事業者の皆様のおかげだと思って感謝しています。最初始めたときは、玉手箱というのをつくったんですけれども、なかなか広がりがありませんでした。返礼品の中で地域ブランド化をしていきたいというのが目標だったんですけれども、そういう意味では、敦賀真鯛とか敦賀ふぐとかいうのもそういう中で知られてきたんじゃないかと思います。第2産業団地にその中の事業者さんが入ってくれましたので、地域ブランドだけでなく産業の創出にもつながってきたんじゃないかというふうに前向きに捉えております。

【記者】 4つ、当初予算での重点施策が掲げられていると思うんですけれども、コロナ

に対してというのは、やはり継続してやらなければいけない大きな柱だとは思いますが、それ以外の3つのところについて、特に市長が思い入れを持って編成したものとかあれば教えてください。

【市長】 コロナについてはしっかりやらなくてははいけませんし、新幹線もしっかりやらなくてははいけませんけれども、一番気持ち的に入っているのは、子育て環境を整備していくというところだと思います。

そういう中で、どうなるか分からないまま期待しながらというので、第1子応援手当というのをつくりましたけれども、第1子応援手当、令和2年度から始めて今まで少しずつ出生数が増えていると思います。そういうふうに感じていますので、コロナの中で全国的には減っているというふうに聞いていますけれども、その中で少し増えたんじゃないかなと。

それから、人口の出入り、社会増減というのを見ているんですけども、社会増減につきましても平成27年とかですと年度途中でずっと人が抜けていく、100人から150人抜けていくような傾向があったんですけども、そこは収まったんじゃないかな。ですから最初の年度始めに人が入ってきて年度終わりに人が出ていくというところは変わらないんですけども、途中で抜けていく人たちがいなくなったということは、まちとして魅力あるところにたどり着いたんじゃないかなと。少しそこから増えたらいいんですけども、なかなかそこまで行きませんが、そういうことを感じています。

その中で、あとは帰ってくる人たちというのを求めていく上で、子育て環境を整備していけば、そういう世代になったら帰ってきて敦賀で子育てしようかなという人たちが増えてくれれば非常にいいなと思っていますので、子育て環境日本一、そういうところを進めていきたいと思っています。

もう一つは、若い人たちの興味として、どういう社会がいいのかなということに対しては、グリーン&デジタル都市への挑戦と書いてありますけれども、そういうデジタル化、それからクリーンな生活環境のいいところというのがあると思いますので、そういうところを整備していきたいというふうに思います。

【記者】 今回の場合、子育て環境日本一というふうなことをうたう、それぐらい力が入っているものなのかなというふうにも思うんですけども、もう少しこの日本一というところを掲げたところの思いというのを教えていただけますか。

【市長】 厳密に日本一の基準というのはないんですね。ですから勝手に日本一を僭称しているみたいな世界になってくるんだと思いますけれども、そういう気持ちでやっていますよということが伝わればいいなと思っています。

【記者】 あと重ねてというか、先ほどの質問とかぶる部分はあるんですけども、ふるさと納税の寄附金が増えたということで、今回の編成については令和2年度分のところからの編成となり、今年度も聞くところによれば70億以上の年度の寄附金額になるというふうにお聞きしているので、それもまた来年にいい形で予算編成ということになるかなというふうに思うんですけども、それがまとまった額としてあることによって、敦賀市政というか財政にとっても、いい形で予算を編成できているなというふうに、そういうふうな所感はありますでしょうか。

【市長】 それは非常にありがたいと思っていますし、配分について、いいと思っています

す。

お配りした後ろのほうに参考資料として、ふるさと納税の使い道というのがあるんですけども、見ていただいたら分かりますけれども、保育園等の自然体験とかいうのもやるんですね。こういうのは、気持ち的に余裕があって何とかできないかなというところに少しそういうものができるのかなと。例えば今はコロナ禍なので、いろんなイベントとかできません。そうすると子供たちがそれぞれの学校を卒業するときに、卒業アルバムに載せるものがないなど。そうしたら何かそこに載せるものをつくってあげないといけないんじゃないかということも、ふるさと納税のお金があることで少し余裕を持って考えることができます。また、保育園の外壁をきれいにしようとか、学校の体育館の整備をしようとか、そういうことにもつながっていくので、ふるさと納税については非常にありがたいと思っています。

大きなお金の使い道としますと、第7次総合計画がありますので、その中で、なかなか使えないことがありますよね。例えば、今でしたら給食センターを建て替えずにはいけないという課題はあるんですけども、それまでにいろんなことをやってきましたので、それはしばらくできないねと。それを前倒しでできないか検討しようかというところに来ますので、私どもにとっては非常にありがたい貴重なお金だというふうに感じています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきましてご質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 お二方とも重なるところもあるんですけども、先ほどの市長が言われたキャッチフレーズの中での新たなチャレンジの部分ですけども、新たなチャレンジという部分では、どの辺に市長が特に気持ちを入れられたのかなということがお聞きしたいのがまず最初の質問です。

【市長】 敦賀躍進の総仕上げといいますと、マニフェストにあった部分とか、今までの計画にあった部分ということになると思いますが、それだけでなく、いろんなことをしていかななくてはいけないというふうに思っています。例えばカーボンニュートラルとかデジタルトランスフォーメーション、少子化に対するこ入れということをしてなくはないということを感じていますので、そういうところについて新たなチャレンジをしていきたい。

また、新幹線敦賀開業というのを再来年度に迎えますので、そうすると、それに向けての準備ということは今のうちから仕込んでいかななくてはいけないということを感じておりますので、そういうことをやっていきたいなと思っています。

【記者】 新幹線敦賀開業の仕込みという意味では、例えば、今回の予算でありますと、新幹線まちづくり推進会議のプロモーション施策などへの拠出であったりとか、継続であるまちづくりプレーヤーの育成とか、そういったところが当てはまると思えばいいですか。

【市長】 それも当てはまるんですけども、だんだん押し迫ってきて近くなってきますと、今までは敦賀の魅力づくりということをやってきましたし、その中でムゼウムであったり、オンリーワンの資源を、それから食べ物が強いというなら食べ物、食材とかを開発してきましたけれども、それだけでは開業したときに敦賀に来て帰って終わりという形になりますので、そうじゃなくて周りの市町と連携して広域観光につなげていかななくてはならない。

もう一つは、今、人材育成をやっていますけれども、来たときのイメージが非常にいいと。また来たいねという気持ちになってもらわなくてはいけないというところの仕掛けというのを今後つくっていかなくてはいけないと思っています。

レンタサイクル、今やっていますけれども、それが敦賀だけでなく嶺南6市町全部に自転車に乗っていければ、そういう人の動きという形になっていくでしょうし、そういう広域的な魅力発信、またお互いに助け合ってやっていくということが大事なのかなというふうに思って、そういうことを組み合わせていきたいと思っています。

【記者】 子育てと、あと新幹線開業で、合わせて2点質問があります。

まず子育ての施設についてなんですけれども、現在、野神からある施設を駅西地区に移転させる形でこの秋にオープンさせていくということなんですけれども、駅西地区にオープンすることでどんな効果を期待されていると考えていますでしょうか。

【市長】 お子さんを預けられるご両親にとっては、早く顔を見たいでしょうし、できるだけ身近にいてほしいなという気持ちがあると思います。市内の方たちだけでなく、市外から敦賀市に働きにくる人、もしくは敦賀市から市外に働きに行く人にとって、駅周辺にそういう施設があるというのは非常に安心しますし便利だと思いますので、そういう仕掛けをしていくための施設というふうに認識して、利便性が向上すると思っています。

【記者】 ちなみに基本、こちらの施設について、市内の人が利用することになると思うんですけれども、仮に新幹線が開業して、県外から訪れた人、観光客とかが利用できるサービスというのもあるのでしょうか。

【市長】 それについては、これからなると思いますけれども、それもできるようになれば、例えば2時間だけ預けて市内観光を楽しむということもできるようになりますので、その辺は、またどういう組み合わせになっていくか、担当部長が答えます。

【福祉保健部長】 まずは市内の方の利用というところで考えておりますが、そういったニーズ等もあれば、また、実施する法人さんのご意向もあるかなと思いますので、そういったところと協議をしてまいりたいなというふうに思っております。

【記者】 続いて2点目で、先ほどの他社さんの質問ともかぶるんですけれども、新幹線開業に向けて、来年度の予算事業、38事業盛り込んだということで、駅西エリアもオープンを目指して進めているということで、いろいろと来年度、形に見えてくると思うんですけれども、改めて新幹線整備に向けて、来年度、どんな年度にしていきたいでしょうか。

【市長】 今キャッチフレーズも募集しているんですけれども、敦賀に一回行ってみたいなということを開業までの間に皆さんに思っていたいただいて、開業したら一回は新幹線に乗って敦賀まで行ってみたいなということをいかにアピールしていくか、というのがテーマになろうかと思えます。

その中で準備しておかなくてはいけないのは、開業した後に、来てみたら意外とよかったねと。先ほど言いましたように、広域観光の中で、もう少し見足らなかったとか、もう一回行ってみたい。そのときに季節を変えてとか、場所を少しアレンジして行ってみたいと。そういう仕掛けになったらいいなと思っていますので、その気持ちにさせる貴重な期間だと思っています。

【記者】 ふるさと納税についてなんですけれども、寄附金を活用した事業は様々やられています、これは建てつけとして、敦賀市がこれに必要なだと思えるような事業にこの寄附

金というのは使えるのか。それとも寄附者の意向、こういうことに使ってほしいと。そういったものがある程度事業に反映されているのか。その点、教えてください。

【市長】 当然、寄附者の意向には沿った形で使おうとしています。自治体におまかせというのがありますので、寄附者の意向の中で、要はこっちの方向に向いているなど。細かい項目ではありませんから、向いているなどというところをピックアップさせていただいてやっています。

ただ、全部そこに投入するのではなくて、当然、私どもの事業を前に進めていく、市民サービスを上げていくということの中で、総合計画の中で上げている事業について前倒して進めていければいいなど。ですから、どうしても予算がありますので、できなくて長期的な目標とする部分がありますけれども、それを前倒してできるチャンスをいただいたというふうに捉えています。

【記者】 細かい点で恐縮なんですけれども、寄附者の意向というのは、納税する段階で何か項目を選択するような形になっているということでしょうか。

【企画政策部長】 寄附者の意向といたしまして、6つ分けさせていただいております、1つ目は健康福祉の増進に繋がる支援、2つ目は教育文化の活性化に繋がる支援、3つ目は産業観光の活性化に繋がる支援、4つ目は都市基盤の充実に繋がる支援、5つ目は安全安心なまちづくり、6つ目が自治体におまかせというふうな6つに分けさせていただいて、寄附のときに希望を取っているという形です。

【記者】 ちなみに、分かればなんですが、割合としてどういった意向が多い。この6つの中では。令和2年度に関して。

【企画政策部長】 令和2年度におきましては、健康福祉の増進に繋がる支援が一番多かったです。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと移らせていただきます。幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 では、新型コロナのワクチンについてお伺いいたします。

先ほど市長のご挨拶にもあったように、5歳から11歳の接種券が今月中に配送が始まり、接種も順次という形になるかなと思うんですが、努力義務というのを国のほうは入れていないという中で、加えて副反応とかの懸念というのものもある中ではあると思うんですけれども、その中でスタートということで、市長としては、どういうふうに5歳から11歳のワクチン接種について捉えていらっしゃるというか、どんどん打ってほしいということなのか、その辺は慎重に判断してやってほしいということなのか。その辺はいかがでしょうか。

【市長】 5歳から11歳について、国のほうの説明ですと打たないよりも打ったほうがメリットがあるということをおっしゃっていますので、打ったほうがいいんだろうということは思いますけれども、例えば学校での集団接種とかそういうことになってくると圧力がかかるとかそういうことになりますので、集団接種といいながらも別の場所でやりますし、小児科の先生のところで個別接種もやっていくということで、できるだけ安心できる環境にしながら打っていきこうというふうに考えています。親御さんの判断になりますが、準備していますので、できるだけ打っていただければというふうに思います。

【記者】 加えて、一般の方というか65歳以上、加えて64歳以下というのも順次始まって

きますけれども、今の接種率の状況とか推移とか。以前は、やはりモデルナ控えめみたいな傾向も見られたかなと思いますが、今の現状はどういうふうに捉えていらっしゃるのでしょうか。

【福祉保健部長】 今現在、3月18日までの予約枠が空いているわけですが、やはりファイザー社製のワクチンにつきましては現状枠がないような状況でございます。モデルナ社製のワクチンにつきましても、個別接種のほうは今現在空きがなく、3月に入ってからモデルナ社製の集団接種についてはまだ十分空きがあるような状況でございます。

ただ、モデルナ社製のワクチンにつきましても、皆さん順次予約をいただいているところがございますので、空き枠に対する予約率につきましては現在約94%というようなところがございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかに幹事社さん、よろしいでしょうか。

それでは、各社にお伺いいたします。ご質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして3月の記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後 2時 5分 終了